

資料12 説教 牧師への勧告 (幾つかの現代に不適當な箇所は削除してあります)

親愛なる兄弟姉妹、ずうずうしさ、虚無や仮定のせいにしないようにしましょう。教会の中で最も低く見積もられている者である私が、高い敬意を受けている人々全体に勧告します。私は、自分のバンドにおいてもこのこと要求していると信じる主に対して高い尊敬の念を戴いています。その方は、私の魂の偉大な主であり、その方の前であなたと私は、自分が僕ということについて説明責任を負うのです。私が愛さなければならないこと、真実であること、公平無私であることなど、長い間私の魂にとって重荷となってきたことです。どうか、愛の神が、あなたをしてこれらの言葉が書かれたものと同じ精神で読むことができますように。偏見のない読者にとって、私は決して怒りや憤激の精神で語っているのではありません。私は、「人の怒りは決して神の義のためには、働かないことを」知っているのです。私は一言も軽蔑の思いをもって語っているのではありません。それは神と人が嫌っているものです。またこれら両者は、私の現在の正直でやさしい愛とは一致することは決してありません。それが、今、私がうけおっていることです。この精神において、私は水の上にパンをなげる覚悟です。多くの日の後、私がそれを見出すことができればそれで十分です。

ところで、あなたは、愛というものが、会話の明快さを禁じることを求めているのはご存知でしょう。それは、あなたや私をしばしば、そのようなふりをしたり、逆にするように強いることはないでしょうか。そして神の視野において、真理があらわれて、各人の良心に訴えることはないでしょうか。そして私がこのように努力する時に、正直にあなたを、神の愛のために、あなた自身の魂への愛のために、あなたの責任に委ねられている魂のために、嘆願することができますように。そしてキリストの教会全体が、語っているものは誰であるかということではなく、語られたものについて偏見をもって考慮することによってあなたの心を偏らせることがありませんように。それが誤りであり愚かなことであっても、「真理と分別のある言葉」を拒否することがありませんように。

私の当初の計画は、自分自身の教会の牧師に対して、平易な思考を提供することでした。しかし以上の考察によって、「断腸の思いをもって」語らないわけにはいかないのです。私はすべての人に負っている者です。それ故に、第1には、私に直接関わりのある人たちに語るのですが、どのような教派の人々であろうと除外する気はありません。それらの人々も神によって召し出され、魂を見張るように言われたのです。この説明を、喜びをもってもたらすために、どうしても考慮しなければならない2つのことがあります。第1は、どのような作法の人でいるべきなのでしょう。第2に、私は以下のような者でしょうか。それともそうでないのでしょうか。

I もし私たちがご自身の血で買い取られた神の教会の監督者であるとしたならば、賜物においても恵みにおいてもどのような者でなければならないのです。

1. まず賜物について考えてみましょう。(1) それらの性質から考えてみましょう。

牧者は第1に、よき理解力と、明確な把握力、健全な判断力、そして信徒と綿密に連絡をとりあうことを、関連づけることができる能力が必要ではないでしょうか。これらの賜物は牧会の業にとってそれほど必要なのでしょうか。そうでなければ、いかに、主のケアにおいてこれらの様々な状態を理解したり、何千もの危険等においても彼らを見抜くことができるでしょうか。彼らが敵対しなければならぬ敵は多いのです。神を知らない人や霊的に闇にいる人に対してどのような取り扱いをしたらいいのでしょうか。いいえ、彼は、サタンの策略に気づいておらず、自分の子どもたちの悪だくみを認識できないのです。

第2に、魂の導き手は生き生きとした思考と、準備のできている思考法を持つ必要がないのでしょうか。またはいかにしたら、彼は、必要な時に、愚かな考えによって愚かな者たちに答えるべきでしょうか。どれくらい頻繁に、これは必要なのでしょうか。私たちはどこにおいても、「自分自身の目には、7人の者が知恵をしぼるよりも賢いと思っている」空っぽの、短気な被造物に、どのような場所においても会います。ですから理由づけは、彼らには使えないのです。理由によっては、彼らを説得はできません。彼らは、説得されることを疎み、沈黙し、我をはり通すのです。

第3に、彼はこれを最も効率的に、言語学的な知識なしに行うことができるでしょうか。これがなければ、テキストに対して私たちは頻繁に戸惑うことになるのです。しかし彼は、議論の絶えない聖書の中においてさらに大きな困難の中に立つことになるのです。牧者は、彼らを誤らせるような学のある人からこれらの人々を助け出すことはできるでしょうか。というのも、根源的な資料が必要になった時に牧者の口はすぐに閉ざされてしまうのです。

第4に、世俗の歴史の知識と同様に、歴史的、地理的な昔の慣習は、絶対的に必要なものではありませんが、聖書を完全に理解する者にとって非常に期待されているのではないのでしょうか。この知識の欠如は、他の人の注釈を読むことによって十分には供給されないのです。

第5に、科学のいくばくかの知識も、また、（科学であれ、芸術であれ）一つの知識であり、いかにそれが時代遅れのものであっても、必要なものであり、聖書それ自体の知識も必要なのです。それは論理です。それは、ものごとを明確に学び、正しく判断し、結論的に理由づける感覚の芸術なのです。それを別の光の下で見れば何でしょうか。それは、説得するものであれ、確証を与えるものであれ、学ぶことや教えることの芸術のようなものです。それは、科学の全体的コンパスにおいて、比較することが望まれているのです。それは第2の論理（形而上学）と呼ばれるものを知ることなのです。このように、すぐには必要でなくても、期待すべきものです。（1）私たちの理解を明確にするために（それがなくては正しく判断したり、緊密に、決定的にみることは不可能です）私たちの考えの範囲を、明確な科学のもとにおくべきなのです。そして（2）多くの有益な作家たちの理解するために、それなくして誰が理解できるのでしょうか。牧者もまた、自然哲学の一般的な基礎を知らなければなりません。聖書のいくつかの箇所を明確に理解するのに必要なのです。科学的知識に支持されて、彼は理解し、適切な時に、いかに見えない神の事柄

は世の創造の時からみることを他者に説明するのです。いかに、天は、神の栄光を宣言し、大空は主の手のわざを示しているのでしょうか。「おお主よ、あなたのわざはいかに満ちているのでしょうか。知恵においてあなたはそれらを創造された」と彼らが叫びだすでしょう。しかしどれほど、彼は、この説明の為ではなく、理解の明快さと思考の習慣を緊密に関連させてすることができるのでしょうか。同様に有益である幾何学の知識がないのにこのことが可能でしょうか。この知識なくしては、教会教父を非難することはできません。すべての時代と国家において、ある人は、この能力があると考えられましたが、それを達成できる機会をもたなかった者が牧者に任命されました。しかし、機会を与えられたが、それを用いることができなかつた人にはどのような言い訳ができるのでしょうか。大学の教育を受けてもそれを全く理解していなかったらどうなのでしょう。彼がある才能を持っているとして、共通の理解があるとしたら、神と人の前には言い訳はできないのです。

第6に、数年この学びの座ですごした人々は、言語や科学に父祖たちの知識を加えることがないとしたらどのように言い訳することができるのでしょうか。そして、特に、聖霊を授けられた聖書の最も正統的な注釈者たちはどうでしょうか。私は主に、ニケア会議の前に書いている人々のことを語っています。しかし彼らに続く者たちとも関連を持ちたくない人はいないでしょう。たとえば、クリュソストモス、バージル、ジェローム、オースティン、そして心がおれた人、シリアのエフライムはどうでしょうか。

第7に、牧師にとってかなり高く評価できる知識の分派があります。それは、世の知識、人の知識、彼らの現実の人生で起こる格言、気質、作法などです。これなくしては、彼は傷つき、何も善をできないでしょう。彼が何も知らなくては、物事全体の性質を知らなくては、人をいかに取り扱うかを知ることは出来ず、どの場面においても、人をだますような人々から守ることもできないでしょう。これに関連するのは、精神の軽蔑がおこるのです。

第8に、彼は注意を分かち合うことはできないのでしょうか。最も一般的でないものが普通共通であると言われていています。でもそれをどのように定義することができるのでしょうか。学派のように、*recta ratio rerum agibioium particulariumu?* でしょうか。または、物事のあらゆる状況の習慣的な考察でしょうか。*Quis, quid, ubi, quibus auxiliis, cur, quomodo, quando?* 私たちの行動をそれらの多様な組み合わせに適用させる能力はどうでしょうか。それがいかに定義されようとも、あらゆる注意を払って、それは学習され、正直さによって適用されるべきではないのでしょうか。それが驚くほど欠けている時に、いかなる不都合が結果として起こるのでしょうか。

第9に注意深さの次に（そこには含まれていませんが）牧者は教養がなければなりません。どこにおいても、あいさつの仕方、気楽さ、行動の礼儀正しさ、また（彼はすべてのものの僕であるので、堂々としていることではありませんが）紳士の礼儀正しさをもち、学者のような正確さを持つ必要があります。私たちはこのような様式を望んでいるのでしょうか。フェリックスやフェストス、アグリッパ王の前のパウロはそうでした。パウロは、

非常に教養があった人物、世界中ですばらしい人物の内の一人です。「啓発をさずける為にすべての人よ、善のためにささげなさい」

このために、特に公の牧会において、強く、明快で、音調の美しい声で、発音においても行動においてもよき演説をしなければなりません。私はここにあって語りました。というのも、それらは想像するよりも自分のものにすることが可能であるからです。たとえかなり弱くて、聞きにくい声であっても、継続していれば、必ず強く、聞きやすい声になるのです。ほとんどすべての言葉にどもる人であっても、明快に、そして簡潔に声をだすことを学ぶのです。そして顕著に、発音においてぶこつで、ジェスチャーでもおどおどしているとしても、しばしば、芸術と努力によって、行いの不器用さや発音のぶこつさを訂正するだけでなく、その両方において優れたものとなり、この点において、その職業における身ぶりにおいてもすばらしいものとなるのです。彼らの天賦の才能において、かなりの努力なしには到達できない多くのものに対してその働きに適するようにその人物を励ますことができるでしょうか。誰が、彼のように教えることができるでしょうか。誰が、彼のように、簡潔に知恵を与えることができるでしょうか。（もし私たちが望むならば、神はその人に出来ることを行わせたいと思っただけを信じるならば）神は、その力強く、しかしひそかに働く聖霊の力によって、私たちの理解を開示し、ひきあげてください、何が必要かということを常に覚えてくださり、彼らに対する私たちの注意を固定し、鋭くして下さるのです。

2. しかし、それらは彼らにとってどれだけ偉大であっても、それに従う者たちと比較すればとるにたらないものです。自然に与えられたり獲得されたりするものは、神の賜物とくらべたらとるにたらないものです。いかにこれは、すべての意図と愛情、キリストの牧者としての実践を支配し、作り出すことができるでしょうか。（1）この重要な職務を引き受けること、それを実践することにおいても、神に栄光を帰し、死から魂を救うことができるでしょうか。これは絶対的に、すべてのものの前に不可欠に必要なのではないのでしょうか。もし彼の目が固定されているならば、彼の体全体も、彼のすべての魂も、働きも、「光に満ちる」でしょう。神は光に暗闇の中に輝きいでよと語られましたが、その主が心の中に光りを与え、すべての道で彼を導き、魂の苦勞を見つめ、満足させてくださいます。もし彼の目や、意図が一つのものに集中していないとすれば、そこに劣った動機があるならば、彼の「すべての体」とすべての魂は、それが、底にある穴からでてきたとしても暗闇に満ちており、そのような人が主から祝福を受けるということのないようにしましょう。いいえ、神の呪いが彼ととどまります。どうか、彼がしっかりした平安を楽しもうと思ったり、また固定した慰めを得ようとしませんように。（2）牧会者の愛情について、「神の神秘の僕」、キリストがその為に亡くなった魂の羊飼いは、神への愛の顕著な秤を与えられはらずであり、すべての兄弟たちを愛するのではないのでしょうか。それは、同じ種類の愛ではありますが、一般のキリスト者よりもはるかに高貴な愛で。もしそうでなければ、高貴な愛性質をもって、自分の立場において、いかに人々と関わりを持つように

保てるでしょうか。愛情なくして、彼の職務を忠実に実行することは出来ないのです。両親にとって、子どもたちを育てあげ、子どもたちに耐えることは可能ではありません。それは熱情的な愛情、表現できないくらい蓄えをもったもの、創造主がこの目的のためにくださったものではないでしょうか。どのような牧師であっても、霊的両親が、「誕生の過程のために」努力をし、「不思議な人が干渉しないような」表現できない愛情の大きな秤なしに、痛みを伴い、キリストの姿を形成するために人々を助けることはできません。

そして、この神と人への愛でさえ、お金と、賞賛を得るという愛、野望と貪欲の愛というこの世に対する愛とは全く一致しないものなのです。この世への愛は、貧しく、低く、非合理的で、まるで子どものようであり、そのような歪曲した愛と神の愛は一致することはできません。これだけでなく、娯楽への愛、魂奥深く入り込んでいるもの、安易に生きようという愛、その前から逃げなさい。

3) 彼の実践においては、「神は不信仰の者に対して、なぜあなたは私の律法を語るのか」と問われます。キリストの牧者、魂の羊飼いとは何でしょうか。牧会者は、神に全く献身しているのですから、万全なる注意と勤勉さをもって、邪悪な言葉や、わざ、悪が露わであるものから離れ、禁欲的な生活を送れなければいけません。無実の事柄において、誰もが攻撃を受けたり、弱められたりしませんように。牧者は、他の者に対して、個人的な性質においても公のふるまいにおいても、群のよき模範として召し出されたのではないのでしょうか。それは天来の性質の模範となり、心が満たされて生活においてしみ出るようにされるのです。結果としての、牧者の生活全体は、召しにふさわしく歩むならば、神を褒め称え続けて、人を助け、感謝と恩恵を被るのです。彼は常に、謙遜で、まじめで、常に喜んでおり、温和で、やさしく、忍耐強く、禁欲的なのです。牧者は、「救いを受け継ぐ」者を牧会するのではないのでしょうか。彼は主から派遣された者、神と人との間に立つ者、貧しい人、主が来られる日まで助けようのない子どもたちを守り、助ける人、彼らに光りと力を供給し、幾千もの知られざる危険の中でも導くのではないのですか。それを牧者の責任に委ねられた者、天における父と共に行うのではないのでしょうか。

誰が、古い創造においても新しい創造においても主である、神とともに、高貴な職務を執行している、そのような神の伝え手を述べ伝えることができるでしょうか。主、永遠なる神の子は、全能なるわざを行い、口の息で天と地を創造されました。そのような主を見つめなさい。また、主は御旨を名誉に感じて行い、御旨を実現しようとする僕をご覧なさい。主の名によって言葉を語り、そこに霊的な創造を起こしてくださるのです。神は、暗く、まだ自然が欠けている形成されてない闇に「光よ。あれ」と語られました。古いものは過ぎ去り、見よ、すべてのものが新しくされるのです。主は継続して、神の天使もできなかった、多くの子どもたちに栄光をもたらすために、人の贖い主とともに働く者を用いられるのです。そのような者こそ、キリストの真実の牧者であり、議論をこえたものであり、あなたと私もそうあるべきなのです。

II. しかし私たちはそのようなものであるでしょうか。上にあげた観点において私たち

はどうでしょうか。憂鬱になるかもしれませんが必要な考察です。多くの者がこの主題について書いたことは事実ですし、何人かはかなりすばらしくよくやっています。しかし、ほとんど、私たちの国では、これらの特殊なことにおいて、調査を行いませんでした。彼らはそれについて常に明快には語らず、ものごとの必要性はあるのですが、言葉で語らないのです。でもなぜ彼らはそれをしないのでしょうか。彼らは自分が愛する人々に対して痛みを与えたくないからでしょうか。可能じゃないという恐れからでしょうか、一時的な不都合をもたらすという恐れからでしょうか。憐れむべき恐れです。私たちの兄弟の魂とのバランスにおいて一時的な不都合があるのでしょうか。または、彼ら自身の多くて、大きな欠陥の良心によって彼らは恥によって、それを削除できず、妨げられているのでしょうか。「あなたは魂に関わる時にそれを恥とってははいけません。特にそれが何千もの魂にかかわる場合に」というのは賢明な助言ではないのでしょうか。そのような場合に、神が私たちの顔に火打ち石を打ち、私たちの表情を確かなものにしてくださるのです。でもそこには別の妨げはないのでしょうか。他の人と比較すべきではありません、優しすぎてもいけません。これら二つは相手に痛みを与えることを邪魔します。それはあたかも同情的すぎて、傷を検査するのをいやがり、患者を失うような外科医なのです。私に痛みを与えてください。触手で検査させてください。神がいやしてくださいませ。

1. 第1に自然の天賦の才能はどうでしょうか。記憶力があまりない人はどうでしょうか。彼らは知識人になることは決してできません。彼らが知りたいと関心を持つこれらの事柄のほとんど知ることができないのです。おお、悲しや。彼らはもれている器に水を注ぎ込んでいるのです。こわれたタンクに水を張ることはできません。私はプラトンと共に「すべての人間の知識は記憶にある」と言うつもりはありません。でも、それは確かなのです。覚えることなくしては、私たちはほんのわずかな知識しか持つことができないのです。人生はあっという間に過ぎ去るのです。私たちはわずかしか学べず、忘れてばかりいます。すでに牧会に携わっている人々に、未だに悲嘆にくれ、どうしようもない欠陥があるのです。彼らは良識を欲しますが、理解力に欠け、能力は低く、浅いのです。彼らの理解力はあいまいで混乱しているのです。その結果、彼らは物事の正しい判断や何についても正しく理由づけをすることが不可能です。正しい理解が何もできない人が果たして知識を他の人に与えることができるのでしょうか。どのようにしたら神と人々への様々な義務を教え込むことができるのでしょうか。過ちの迷路に陥った時に罪のなわめと試みからいかにして彼らを導くことができるのでしょうか。いかしたらサタンの策略を知らせることができ、世の知恵から彼らを守ることができるのでしょうか。

私はこのことを彼らのために語っているのではないということを実感できるでしょう。（というのも彼らは頑固だからです）しかし、彼らの両親のために語ります、ご両親は、目を開いて聴いてくれるかもしれません、

私たちは、敏感に感じるべきことを感じているのでしょうか。第2に、後から手にいれた天賦の才能についてはどうでしょうか。（共通の理解があると仮定して）問題は自分

自身の力の中にあります。私はこれを読む各人が自分にあてはめることを願います。自分には欠点があるのでしょうか。私こそ、そのような者ではないのでしょうか。どうか各人がまじめに自分のことを確かめてみましょう。私は

(1.) 聖書の知識を持っており、それを他人に説明することができるくらいでしょうか、そのことによって他人にとって導きの灯となるのです。私は明確な信仰の類比の見解を持っているのでしょうか。それは私を最後まで導くものです。私は聖書の幾つかの箇所を知っているのでしょうか。旧約も新約も。テキストの箇所が語られたら、どのような文脈か、並行箇所があるかわかりますか。私はその点においては少なくともよき神学者だったのでしょうか。または原文に精通している人でしょうか。四福音書、使徒言行録、手紙の文法構造を知っているのでしょうか。そして読んだ箇所の（文字通りの意味とともに）霊的意味を修得しているのでしょうか。各書の範疇を理解し、各箇所がどこに導こうとしているかを知っているのでしょうか。各テキストからたどれる自然の結論を得ることができるのでしょうか。それに関して、またそれに対してあげられる神の言葉を破壊する、ユダヤ人、理神論者、アリウス主義、ユニタリアン主義者や他のセクトの反論を知っていますか。この反対に対して満足のいく答えを与えることができるのでしょうか。この聖なる書の各部分を、いくつかの箇所で聴衆が求めるような適用することを学んだのでしょうか。

(2.) ギリシャ語とヘブライ語を理解していますか。（各牧者が行うように）書かれている本を説明するだけでなく、反対者に対して防御できるのでしょうか。原点を理解している者や理解しているふりをしている人の憐れみによっているのではないのでしょうか。いかにしたら彼のみせかけを論証することができるのでしょうか。旧約聖書の用語を批判的に理解しているのでしょうか。少しも理解していないのでしょうか。私は、ダビデの詩編や、創世記の第1章を読んで理解できるのでしょうか。新約聖書用語を理解しているのでしょうか。その冷徹な修得者でしょうか。ルカによる福音書の第1章を読んで理解しているのでしょうか。もしそうでなければ一体何年を学校につきこんだのでしょうか。大学では何年学んだのでしょうか。当時、私は一体何をしていたのでしょうか。私の顔を覆うほど恥ではないですか。

(3.) 私は自分の職務を理解しているのでしょうか。私は神の前に私の性格を理解しているのでしょうか。キリストの使者とはどのような意味があるのでしょうか。それは王国や天国からの親善大使でしょうか。人が説明できるように、人の魂を見張ることにこめられた意味は何でしょうか。

(4.) 聖なるものを確認し、例証するような世俗的な歴史の大半を理解していますか。聖書に述べられているユダヤや他国の古代の習慣に精通しているのでしょうか。少なくとも聖なる書物に言及している満足のいく歴史の知識を持っていますか。私は、地理に熟練しているのでしょうか、聖書に描かれている場所の状況を知り、説明をなすことができますか。

(5.) 科学の知識には耐えうるのでしょうか。科学の門をくぐり、論理的であることができるのでしょうか。もしそうでなければ、深くはいくことができません。入り口でつ

まずくのではないのでしょうか。少しでも科学をよく知れるように。そしてそれをいつでも用いることができますように。あなたは、科学を全く理解していないのですか。科学式や数式は理解を超えているのでしょうか。間接的な科学式を直接的なものに、仮説を範疇的な三段論法に削減できますか。形而上学を理解しているのでしょうか。もしそうでなければ教育家の深さ、スコトゥスやアキナスのような緻密さ、また第1の原則、一般原則、有益な科学はどうなるのでしょうか。私は、適切な指導者のもとで自分の考えを整理することを修得しましたか。そのようにすれば快適に楽しく読書ができますし有益なものとなります。ヘンリー・ムーア博士の著作で、マールブランシュは「真理の後をたどり求めよ」クラーク博士は、「存在の例証と神の属性」と語ります。自然哲学は理解しているのでしょうか。あまり深くしれなくても、自然哲学の基礎は自分のものとしているのでしょうか。私はグレーブサンデ、カイル、アイザック・ニュートンのプリンキピアを、彼の「光と色の理論」と共に修得しているのでしょうか。そのことに加えて私は、形而上学的な知識の蓄積を持っていますか。私は数学のABCやユークリッドの幾何学を知っていますか。そこまではいってなくても、未だに初心者であっても、学校に入ってから私はどのようなことを学んできたのでしょうか。

(6.) 教父はよく知っているのでしょうか。教会の初期の段階に生きた尊敬すべき人々についてです。私は繰り返しローマのクレメンス、イグナティウス、ポリュカルポスのような黄金時代の人々を読みましたか。またはユスティノス・マルティル、テルトリアヌス、オリゲネス、アレキサンドリアのクレメンス、キプリアヌスはどうでしょうか。

(7.) 世界に関する知識を持っているのでしょうか。人について学びましたか。(本についても)、そして彼らの性質、格言、作法について学びましたか。人を用心するように学びましたか、鳩の無垢さに、へびの知恵を付け加えましたか。神は私に本性か、獲得したことによって霊の認識力を与えましたか。またはそれとともに、慎重さによってすべての場合に、またすべての状況においてそれらの様々な組み合わせに従って行動を合うように変化させることができるのでしょうか。荒っぽかったり、作法を逸脱しないように努力していますか。また全くしつけがされていないように行動しないようにしていますか。行動が柔らかい物腰で、気楽で有名な人をまねようとしていますか。私は(いままで言葉においても行動においても軽々しかったり、軽薄であったりしたことはないのですが)すべての人々にとって話しやすく、礼儀正しいのでしょうか。自分の力の中のひとつである手段を見過ごすことはなく、性格が一定しており、彼らにとってよい啓発となるように会話をする人々を喜ばせていますか。もし私がこれらの天賦の才能でさえ欠けているとするならば、そのような欠けを悔やむべきでしょうか。どれくらい私はさっと動かず、そうあるべきなのに役立つことができなかつたのでしょうか。昔の偉大な遺産、19世紀のニケア後の学者たちの書いたものを手に入れることができ、精通することができたはずの機会を無駄にしたとすれば、せつかくの有益さを無駄にしたことになるのでしょうか。科学を修得できたのに貴重な時間を無駄にしたことでしょうか。どれくらい時間の足をひっぱったでしょう

か。どれくらい助けてくれる人々がいるのに不愉快きわまりなく、友達を捨て去ったことでしょうか。でもそれは最悪ではありません、ギリシャ語やヘブライ語を修得できたのに時間を無為に過ごさなかったでしょうか。この聖なる知識の宝を手に入れることができているはずなのに。しかしそれらは私の目から隠されています、それらは身近にあるのに鍵がかけられており、それをあける鍵を持っていないのです。しかし、私は、その重大な欠陥を補うために（現在までには供給されたはずなのに）英語の聖書の最も正確な知識によって不断の努力をしたでしょうか。それを日夜黙想したでしょうか。私は、自分が家の中で座っている時、道を散歩する時、横になるとき、起きる時に、それを考え（また語った）でしょうか。この手段によって私は、テキストの、文字通りの霊的で完全な知識を獲得しましたか。そうでなければ、どうしたら他者に教えることができるでしょうか。これなしでは、本当に目の不自由なガイドなのです。もし自分自身で学んでいなければ、群を教えることはできず、世を支配することも、神に魂を導くこともできないのです。

2. しかし賜物よりもより高い思慮があります。これらすべてを加えたよりも高いものであり、外的で知的な才能が無に帰するようなものがあります。私は、神の恵みに関してそのような者であるべきでしょうか。主なる神がこれについて正しい判断をしてくださいますように。そして、この職務と牧会を行うことに関する私の意図は何でしょうか。この教区の責任を牧師や助祭として負うとは何を意味するのでしょうか。常に、また今も神に栄光を帰すためでしょうか、そして魂を救うためでしょうか。私の目はこの事に、最初から今まで集中しているのでしょうか。私の意図に関して不純なものが入っていなかったでしょうか。今も、最初も世俗的な見解は持っていなかったでしょうか。十分な給与を手に入れる為や即効性のため、快適な生活のための名誉欲や出世欲はなかったでしょうか。

あ一、兄弟よ、「あなたの内にある光が暗かったら、いかに、すべてが暗いことでしょうか。快適な生活が、牧会に入る動機なのですか。あなたはこれを太陽の表面のように、あなたの頬を赤くすることなく、認めますか。あなたは賜物よりも金銭により高い価値をおいているのではないのでしょうか。賜物を望まず、賜物を、お金がそれに伴っていない限り、もらおうとも思いません。主教は、あなたが按手礼を受けた時に「汝、聖霊を受けよ」と語りました。しかしそれに対して、あなたは注意を全く払いません。これを誰が、金銭を受け取るように聖職録による収入を受け取るのでしょうか。神の前で御言葉を語り、礼典を司る一方でそれらを受け取る者に、主は聖霊を授けられるのです。それ故に、「あなたの手によって」「聖霊も」今与えられるのです。しかしあなたはそのようなことに関心がありません。あなたはもはや牧会者ではありません、私は、教職者が1年ごとの給料をもらうのを非難しているわけではありません。でもそれだけを求めることを非難しているのです。主には純粋な目と悪の目の間の中間はないのです。純粋でない目は悪なのです。それは明白で判断された場合です。聖職者として、神に栄光を帰し、魂を救うこと以外の職務を引き受け、実践する者の目はきよくないのです。その結果、それは悪なので、彼のからだ全体は暗闇で満ちているのです。彼の中にある光は、暗闇であり、暗闇が魂全体をおおって

いるのです。常に平安をもたず、神からの祝福もなく、仕事からくる実もないのです。彼らの目は固定されていないのです。ですから彼らの心は暗闇でみちているのです。同じ泥沼でつまずき、それは「暗い山でつまずく」ようなものです。まことに、「わずかな生活費では大家族を養うことはできない」という嘆願を聴きます。いかに家族を維持するのでしょうか。それは紫の絹で彼らを装うのではありません。彼らが日ごとにぜいたくに暮していくことができるというのではありません。しかし今のあなたの生計は、あなたに必要なものを賄ってくれないのでしょうか。それは、儉約生活では維持できないのでしょうか。クリスチャンの質素さはキリストの牧者になるためにあるものです。それは、壮麗さや壮大さ、上品なぜいたく、あでやかな感覚に訴えるものの中で維持するものとは異なるのです。もしあなたの目が開かれているならば、あなたの収入がいかほどのものであれ、地獄の火から自由なように、これらから自由であるはずです。第2に、「より大きな収入があれば、より素晴らしいことを行える」という嘆願もあります。しかし、あなたは、神の臨在のもと、本当にこの見解の為に、この目的のためにだけ大きな収入を求めると主張するのですか。そうであれば、あなたは神から叱責を受けます。あなたの目はきよくないのです。言い逃れしたり、巧みに逃げたりしないようにしなさい。それは、あなたの行動の動機ではないはず。より素晴らしいものを受けただけが神の目的ではありません。それは神を愛しているのではありません。(あなたはそうでないことを知っているのです、あなた自身の良心は数千もの証人です)

それに加えて、大きな収入が、より霊的な事柄をなすことが可能であることを意味しているのではありません。多くの収入を得て、飢えているものに与え、裸の者に着せることはよいことですが、それよりもいいのは「死から魂を救うこと」、「火事場から取り出されたもえさし」を取り出すことです。そのためにあなたは特別に召されたのです、そして「あなたの学びと努力」に力を傾けることを約束したのです。しかしあなたは、第1のものに第2のものを付加することによってこの種のものに対してよい行いをすることが可能です。あなたの一番大切な群れにあなたの時と力を使用しなさい。

しなしながら、「多きな収入があれば、一時的なすばらしさを行うことが可能です」という人もあるかもしれません。しかし、「もし富が増えるとしたら、食することも増えるのです」あなたの支出もあなたの収入にあわせて増えるでしょう。この世においてこのことを信じる理由はありません。逆の例が多く存在するのです。彼らがより力を持つときに、よりわずかしかもたないことはどれくらいあるでしょう。今や、彼らは多くのお金があります、それをより愛するのです。わずかしかもたない時はそのわずかなものを与えることをよく行いました。しかし、たくさん所有したので、多く与えることをもはや行いません。いえ、全くそれを与えようとはしないのです。

あなたは牧師職として生計をたてているのでしょうか。あなたはそれを別のものと交換するのですか。なぜあなたはそのようなことを行うのですか。なぜ牧師職として生計を立てることではなく、贅沢に生きることを好むのですか。ある人は、以前いたところでは1年間、

50ポンドを得ていましたが、今牧会している所では100ポンド得ていますという人もあるでしょう。でもこれがあなたの真実の行動の動機なのですか。彼はどこに行くのでしょうか。ロンドン、ブリストル、それともノーサンプトンですか。なぜ彼はそこに行くのでしょうか。お金をさらに所有するためなのですか。聖霊があなたを魂の監督者としたにもかかわらず、どうしたら不滅の魂を台無しにすることができるのでしょうか。しかしそれは、それは言い訳され、正当化され、防御されました。それはわずかの人々だけでなく、ここでも、あそこでも、敬虔さと恥を欠いている人々によってです。しかし、一見、宗教的にみえる人々は、英国でもみられるのです。

(2) 私は第2に、愛情についてはあるべき模範を示しているのでしょうか。私は、人々の中から神に用いられるのにふさわしくなるように按手を受けました。私は神と人との間に、仲介者の偉大な権利において立っています。私の創造主と仲間である被造物の前で、最も身近で慕われる関係を作るのです。従って私は、神と兄弟に対して、主のために、心を差し出しているのでしょうか。神と隣人を、どの人も自分のように力を尽くし、心を尽くして愛しているのでしょうか。この愛が私を飲み込み、私の全体を保持し、最大の幸福をもたらしているのでしょうか。それが私のすべての感情、気質を生み出し、私のすべての力を規則化しているのでしょうか。それは私のすべての考えの泉となり、私の言葉と行為のすべてを支配しているのでしょうか。もしそうであるならば、私ではなく、神こそほめたたえられますように。もしそうでないならば、「神よ、罪人に慈悲深くあってくださいますように」少なくとも、神の栄光のためということに関心がありますか。人々の救いへの渇きが、そのために、自分にとっても必要と思うものも何でもあきらめますか。肉と血に対してどれくらい悲しいことだとしても、いかにどのような苦しみにもたえましたか。その為に地獄から一つの魂を救うためにです。これが私のすべての時、すべての場所で支配している性質なののでしょうか。それは私のすべての努力を軽くしますか。もしそうでなければ、何と云うんざりなことでしょう。何という苦役なののでしょうか。仕事に着手する準備ができていないのでしょうか。私がまだ世を愛していたとしても、これが私の主な性質であることは可能なのでしょうか。絶対にいいえです。私が「世を愛し同時に父を愛することは」私の中にはあってはならないのです。神の愛は、もし私が金銭を愛するとしたら、娯楽を愛していたら、私の中にはありません。また、名誉と賞賛を好み、洋服やよい飲食だけを求めるならば、神への愛は私の中にはないのです。さらに、怠慢、安易なことを愛することは、神の愛とはつりあわないのです。貪欲で、野心家でぜいたくで、怠惰な牧師なののでしょうか。これらの特色が見出されるところでは、不信心も増すのではないのでしょうか。教職者という職業の精神と比較して、そのような名前では彼らが呼ばれるとは冒流的なことです。しかし真に叱責がやってくる主こそ畏敬されるべきです。そのような人にとっては生まれてこなかった方がいいのです。そのような者は、道からそれていくようなものです。重要な地点は手の届くところにあるのに、彼は海の深みにそれを投げ入れるようなものです。

(3) よりすばらしい霊をもっている人は考えてください。第3に、私の実践することに

ついては、実践してきたでしょうか。プライベートな生活においても神に全く献身しているのでしょうか。一つの事を意図し、どの点に関しても自分の意志ではなく、私を遣わされる主によっているのでしょうか。悪意のある言葉やわざ、悪さがみえているもの、自由裁量説を注意深く、断固として断っているのでしょうか。それらのものは弱者の進む道においてつまずきの石となるのです。私は熱心によきわざに励んでいるのでしょうか。時間があれば、すべての人にいろんな種類の、自分にできるかぎりのよいことをなしているのでしょうか。私たちは、いかに、任されている公の仕事を果たすべきでしょうか。私の牧師としての性格によってでしょうか。私は、言葉においても、行動においても愛においても、精神においても、信仰においてもきよさにおいても、私の群の模範でしょうか。私の言葉、日ごとの会話は、常に同意に満ちており、聴衆者に対して恵みをもたらしているのでしょうか。私の行為は召しの厳粛さにふさわしいものでしょうか。キリストが歩まれたように歩んでいるのでしょうか。神と人への愛が心を満たしているだけでなく、すべての会話において輝いているのでしょうか。私の言葉と行為にあらわれる精神、気質は、謙遜な大胆さをもって語ることを可能にしているのでしょうか。ここにおいて、「私がキリストのものであるように、あなたもキリストに従っていますか」霊的な洞察がある人はすべて（木はその実によって裁かれるので）「今私が生きているこの人生を神の子の信仰によって生きる」という知識をもっており、「その素朴さと神による誠実さによって」「世においても会話をしていますか。世的な欲望から、悪から、空しい情熱からきよめられていますか。私の人生は、愛の労苦を継続し、神を賛美し、人を助けていますか。「主の栄光を」どのようなことにおいても目には見えない神をまず見えていますか。私は神の像に栄光から栄光へ、主の霊によって変えられていますか。兄弟よ、これこそ私たちクリスチャンの召しではありませんか。より明確には、キリストの働き手ではありませんか。そしてなぜ（私は、なぜ不足しているかは言いませんが）墮落し、不足していることに満足しているのでしょうか。召しよりもかなり低く沈んでしまうという必要性が何かあるのですか。誰が私たちの手にそれを要求するのでしょうか。それは決してその人の権威をもって牧会している権利によってではありません。彼の意志は最初の使徒と同じように私たちの意志と同じでしょうか。彼の力ではなく愛は、昔のように同じでしょうか。私たちはそうでないことを知っています。イエスキリストは「昨日も今日も永遠に変わることはありません」そうだとしたら、あなたはなぜ、1700年前と同様に「燃えており輝く光」ではないのですか。あなたは、輝くホーリネス同様、同じ燃えるほどの愛を受け取りたいと思いませんか。あなたは望むはずです。これは人の子の誰にも与えられる最も偉大な祝福であることに気がないのですか。あなたはその為に計画し、目標としています。イエス・キリストにおける神の高貴な賞をめざして進みましょう。あなたは常に、また正直に祈っていますか。そして主が生きておられるようにあなたは到達するのでしょうか。祈り続けましょう、そしてエルサレムに、神より力をいただくまで一時的に留まりましょう。神の命じられる聖礼典を守り、特に神の言葉であり、自分自身を否定し、日毎に十字架をとる、時間があれば、すべてのよきこと

をなすのです。そして確かに「私たちの偉大な羊飼い」と私たちの群は主の意志を行うために私たちを完全にしてくださり、主の目にかなうことを行うために私たちのうちに働いてくださるのです。これこそがあなたの僕であり兄弟である者の望みです。

私たちの共通の主において

ジョン・ウェスレー